

非暴力の源流をたどる

— グジャラートの宗教思想とジャイナ教 —

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 国際コミュニケーション学科

准教授 間 永次郎

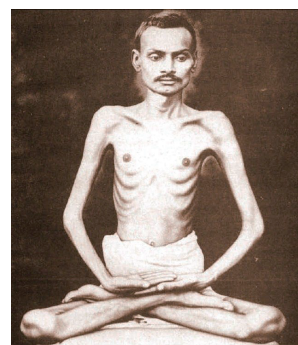
研究分野：南アジア地域研究／宗教学／社会思想史

研究者情報：researchmap.jp/e_hazama

概要：あらゆる命を尊び、虫一匹さえ殺すことを戒めるジャイナ教。その教えが根づくインド西部グジャラートは、後に「インド独立の父」ガンディーの非暴力思想をも育んだ。だが同じこの地では、異なる宗教集団の間で激しい暴動も繰り返されてきた。人を結びつけるはずの信仰が、なぜ人を引き裂くこともあるのか。本研究は、植民地期の社会変容に着目し、この地に育まれた非暴力思想の系譜をたどる。現地に残るグジャラティー語の文献を読み解き、思想家たちが遺した地域的伝統を掘り起こす。

① ジャイナ教 — 「殺さない」という教え

グジャラートの地に深く根づくジャイナ教は、虫一匹さえ傷つけることを固く戒める「アヒンサー（不殺生）」の教えで知られる。世紀転換期の代表的なジャイナ教思想家である、ラージチャンドラ（右写真）らの言葉を読み解き、その倫理が英領時代にどう鍛え直されたのかを探っていく。



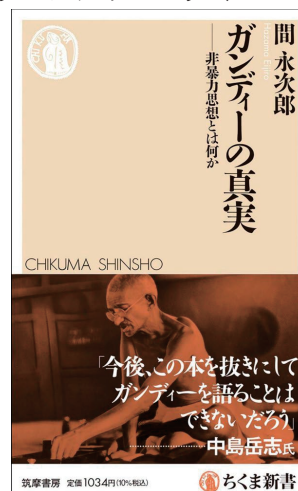
ラージチャンドラ（1867-1901）

② グジャラートが生んだ思想家たち

19世紀以降のこの地には、近代西洋と向き合い、独自の思想を築いた知識人がいた。思想家マニラール・ドヴィヴェーディー、詩人ナルマダーシャンカル、作家で政治家のK. M. ムンシーなど。日本ではほぼ無名だが、20世紀前半に隆盛したインド独立運動に不可欠な理論的基盤を提供した。本研究は彼らの著作や子孫への聞き取りから、その思想の諸相を明らかにしていく。

③ ガンディーの「非暴力」を問い直す

世界が知るガンディーの非暴力は、どこから生まれたのか。彼の著述を読み解くと、それが故郷のグジャラートの思想家の遺産を少なからず受け継ぐものであったことが見えてくる。本研究は、西洋式教育の背後で、ガンディーが影響を受けていた地域的伝統に着目しながら、彼の非暴力思想を捉え直す。



自著『ガンディーの真実』筑摩書房、2023

＜特許・共同研究等の状況＞

- ・科学研究費助成事業（日本学術振興会）：基盤研究(C)「近代インドのアドヴァイタ主義の再考」2025-2029（代表）／基盤研究(B)「インドにおけるSDGs政策過程の比較分析」2023-2028（分担）など
- ・受賞：新書大賞2024（13位）／第8回 南アジア学会賞（2021）／社会思想史学会 研究奨励賞（2018）
- ・講演・出張講義・メディア出演・一般向けの執筆等のご相談を歓迎します。